

# 火災に注意

## 火災事故防止のために

- ・理科室に、消火器、消火用砂、毛布を常備する。  
各机には、ぬれぞうきんを準備する。
- ・入り口付近や避難経路に妨害物を置いてない  
か点検をする。
- ・理科室を出るとき、必ずガスの元栓、電気のコンセント・スイッチ（分電盤）の点検をする。
- ・ガスライター・マッチ・ろうそく・ガスピンべなどは、いたずらされないように保管場所や使い方に注意する。
- ・アルコールランプのアルコールの補充は、必ず教師がする。児童にはさせない。
- ・ガスバーナーのゴム管は、古くなると割れやすいので、常にチェックする。
- ・児童に火事の怖さを十分に理解させ、加熱器具の正しい扱い方を身につけさせる。
- ・熱に対して弱い材質の器具等の使用はできるだけ避け、使うときは十分注意させる。
- ・火災が起きたときも冷静に行動できるように、火災に対処する基礎知識を身につけておく。
- ・火を消すには、燃焼の3条件の1つをなくせばよい。
  - 1 空気がある⇒消火器の粉末やぬれぞうきんで空気を遮断する、など。
  - 2 燃えるものがある⇒燃えるものを取り除く、など。
  - 3 温度が高い⇒水をかける、ぬれぞうきんでおおったりして温度を下げる、など。

## 火災事故が起きたら

あわてず冷静に事故の内容、程度を把握し、適切に対処することが大切である。

〈ノートや本などが燃えたとき〉

- ・近くにある燃えやすいものを取り除く。
- ・ぬれぞうきんや砂をかけて消す、または、消火器で消す。多量の水をかけるのも有効である。

〈衣服に火がついたとき〉

- ・あわてて手ではたいて消そうとしないで、床に押しつけたり、ぬれぞうきん（ぬらした毛布）をあてたりするなどして空気を遮断して消す。
- ・水を大量にかけて消すのもよい。

〈アルコールランプが倒れて、こぼれたアルコールに引火したとき〉

- ・近くにある燃えやすいものを取り除く。
- ・ぬれぞうきんや毛布をそっとかけ、空気を遮断する。

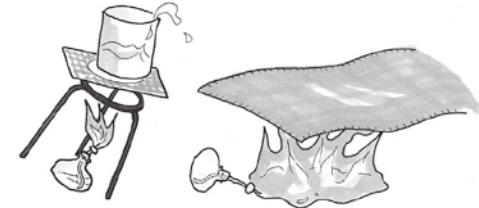
その後に毛布の上から水をかける。

⇒毛布をぬらしてからと考えると消火が遅れる。

〈ガスバーナーがバックファイヤーを起こしたとき〉

……空気の入れすぎが原因

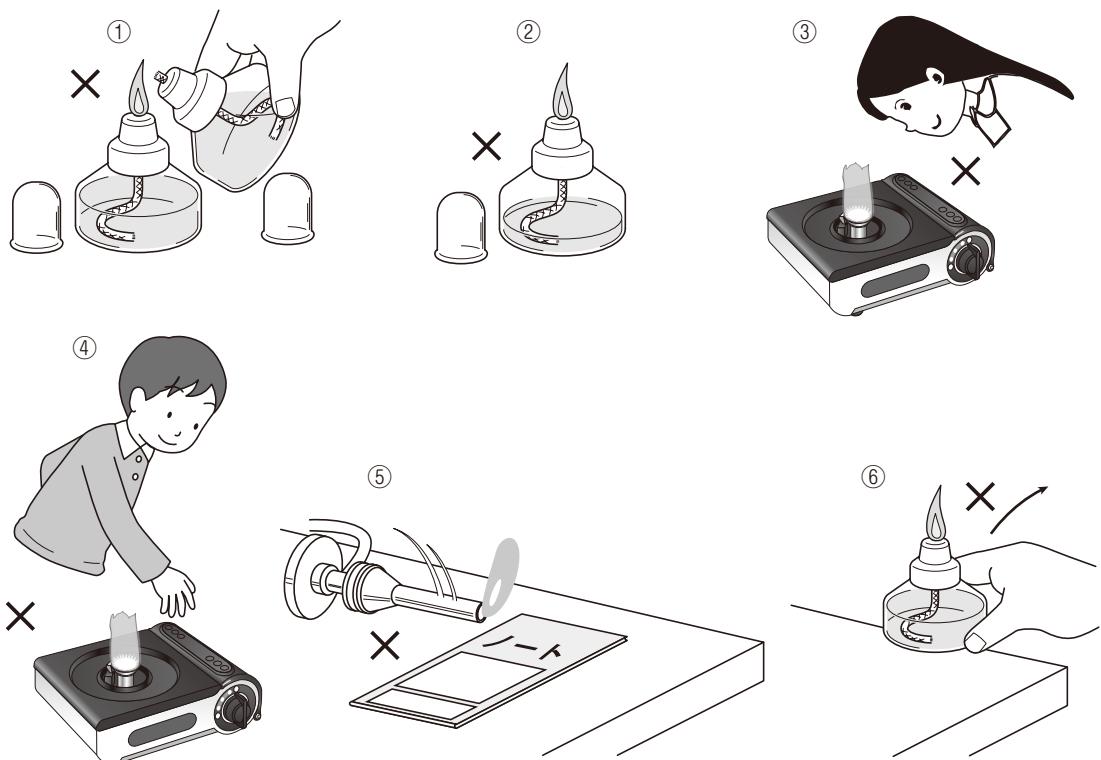
- ・ガスの元栓を閉じる。ガスバーナー全体が熱くなっている  
ので触らない。
- ・ガスバーナーが冷えてから、再び火をつけるようにする。



# 火事に注意

## ● 火事を起こさないために

- ①アルコールランプのもらい火をしない。
- ②アルコールの量を半分以下にしない。  
りょう
- ③ほのおの上にかがみこまない。
- ④ほのおのそばに服を近づけない。
- ⑤ガスバーナーがたおれないようにする。火の  
近くにもえやすいおノートなどを置かない。
- ⑥火のついたものを持ち歩かない。



## ● 火が燃えうつったときは

- ・ものに火が燃えうつったことに気がついた人は、すぐに先生に知らせる。
- ・さわぎ立てないで先生の指示したがう。